

おおだて 市議会だより

104号

平成24年5月1日

平成24年3月定例会

(会期：2月28日～3月19日)

- 主な議案等の審査結果 (3月定例会) …… P.2
- 一般質問 …… P.4
- 私もひ・と・こ・と …… P.10



東館小学校 新1年生
平成24年4月6日入学式にて

主な議案等の審査結果

3月定例会（会期：2月28日～3月19日）

内訳：専決処分の報告2件・承認3件、条例案23件、単行案5件、予算案43件、人事案4件、
 請願2件、陳情3件、継続審査中の請願3件・陳情10件、意見書案1件

計99件

主 な 案 件 ・ 内 容	結 果
○大館市墓地等の経営の許可等に関する条例 墓地、埋葬等に関する法律の一部が改正され、平成24年4月1日から施行されるのに伴い、墓地等の経営の許可等に係る基準などを定めます。	原案可決
○大館市湯夢湯夢の里に関する条例の一部改正 温水プールと温水プール休憩所について、平成24年3月31日をもって廃止します。	
○大館市立スキー場に関する条例の一部改正 現在休止している比内スキー場について、今後も利用が見込まれないため、平成24年3月31日をもって廃止します。	
○平成23年度一般会計補正予算（第12号）案 ・生活バス路線を維持するための運営会社への補助金 1億2,336万1,000円 ・小・中学校の工事費の追加 2億8,631万円 （桂城小学校・東中学校の耐震補強工事費、成章中体育館改築工事費） ほか	
○平成24年度一般会計予算案 ・市公共施設へのLED照明設置の借上げ料（平成29年度までの5年間のうちの1年分） 537万円 ・城南保育園分園耐震補強事業費 3,385万7,000円 ・乳幼児集団予防接種費、高齢者インフルエンザ予防接種費ほか 1億4,555万8,000円 ・緊急雇用創出臨時対策基金事業（事業従事者121人、うち新規雇用者116人） 2億8,122万3,000円 ・比内地鶏糞処理施設建設費 2億2,459万円 ・高齢者等低額フリーパス券支援事業 1,700万円 ・住宅リフォーム緊急支援事業 6,000万円 ・東館小学校ペレットボイラー導入事業費 3,838万8,000円 ・中央公民館エレベータ設置ほかバリアフリー化に要する費用 2,465万1,000円 ほか	賛成多数により 原案可決 〔賛成26 反対1〕
○平成23年度一般会計補正予算（第13号）案 ・除雪経費 1億2,000万円 ・第一中学校第2体育館改築事業費 1億3,433万9,000円 ほか	原案可決

主 な 案 件 ・ 内 容	結 果
○人権擁護委員の候補者の推薦について 齋藤 三恵子 氏 (川口4区)、多賀谷 京子 氏 (独鈷)、福田 照子 氏 (森越) 松澤 耕策 氏 (寺崎)、若松 清幸 氏 (寺ノ沢)	異議なし
○教育委員会の委員の任命について 清野 克子 氏 (片山2区)、高橋 善之 氏 (谷地町) ○上川治財産区管理委員の選任について 石垣 米藏 氏 (中山)、石田 勝正 氏 (根下戸)、伊藤 隆造 氏 (萩野台1区) 齋藤 貢一 氏 (舟場)、菅原 務 氏 (金谷)、戸田 憲一 氏 (池内)、本多 貞利 氏 (餌釣) ○下川治財産区管理委員の選任について 虻川 正徳 氏 (横岩)、石川 久晴 氏 (餅田2区)、小林 永康 氏 (川口5区) 齋藤 常彰 氏 (川口4区)、下総 慎一郎 氏 (片山2区)、丸岡 信雄 氏 (立花2区) 谷地田 恒夫 氏 (片山町3丁目)	同 意

請願・陳情

○3月定例会に提出されたもの ○継続審査となっていたもの

請 願	○米の先物取引試験上場の中止について	趣旨採択
	◎平成24年度本場大館きりたんぼまつり開催に対する助成について	採 択
	◎市道上代野釈迦内線ほか1路線の狭隘箇所道路改良について	
陳 情	○地方消費者行政に対する国の実効的支援について	採 択
	○介護職員待遇改善交付金の継続について	趣旨採択
	○看護師等の大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護について	
	○年金受給資格期間を10年に短縮することについて	不 採 択
	○無年金・低年金者への基礎年金国庫負担分3万3,000円の支給について	
	◎最低賃金の大幅引き上げと中小零細企業支援の拡充について	継続審査
◎子ども・子育て新システムによる保育制度改革に反対し、現行保育制度の拡充を		
◎住民の安全・安心を支える公務・公共サービスの体制・機能の充実について		

－ 意見書の提出 －

地方消費者行政に対する国の実効的支援を求める意見書

《提出先》衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣、総務大臣・財務大臣

内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）

佐藤 健一 議員 (うぶき)



循環型農業と

HIYOSUNO

〈問〉 豚糞を利用した有機農業の実証試験の結果は。

〔市長〕 平成23年度は田代地域の2カ所の圃場で主食用米と新規需要米で実証試験を行ったが、どちらも豚糞を使用した方が慣行栽培に比べて収量が一割前後減少した。しかし、堆肥の実証試験は、初年度は前年度までの化学肥料の影響があらわれるため、2、3年は実証を継続しないと実証が得られない。引き続き実験を行い、コスト面等、豚糞使用の効果を十分に確認したうえで利活用を図り、循環型農業を推進してまいりたい。

〈問〉 農業の基礎は土づくりと言われているが、畑作物の産地づくりのため土づくりへの助成を考へては。

〔市長〕 畑作の連作障害、異常気象、病害などに対応するには土づくりが重要であり、また、

化学肥料に代え堆肥を投入することで産業コストの低減も期待される。24年度の土づくり助成は、戸別所得補償制度の産地資金で地力増進作物に対し、10アール当たり1万円の助成を行う。また、今秋には田代地域の養豚施設が、来春には比内地鶏鶏糞処理施設が稼働の予定なので、その堆肥を土づくりに還元するとともに、堆肥購入費に助成を検討していきたい。

商工と観光について

〈問〉 観光物産プラザの今後の方向は。

〔市長〕 この3月末で閉鎖する観光物産プラザに代わり、4月から大館駅待合室といとく大館ショッピングセンターに観光案内施設を設置し職員を配置する計画であり、本年10月からのプレ秋田※DC、25年のDC本番、26年のアフターDCと国民文化祭に向けて、3年間は継続してまいりたい。施設の臨時職員については、新しい感覚を持ち、観光に興味がある積極的な方を雇用したいと思っている。

〈問〉 きりたんぼを手軽に食べることができる場所の提供を。〔市長〕 市内には、きりたんぼ鍋を提供する飲食店が数多くあり、たんぼを自分でつくり、鍋や味噌つけたたんぼにして食べいただく体験型観光の受け入

れ施設も増えてきている。今後は、食材や鍋・七輪などの道具を提供して自分で調理して御賞味いただける場についても検討してまいりたい。



藤原 明 議員 (平成会)



東日本大震災による

岩手県のがれきり受け入れについて

〈問〉 人道的見地から、受け入れに協力して行くべきと考えますが市長の考えは。

〔市長〕 被災地が今一番必要としていること、困っていることに協力することこそが東北の一員として求められている。その一方で、大館市民の安全の確保を最優先として考えなければならぬ。放射能による汚染の有無や情報を収集し、技術的に

受け入れ可能か検討するとともに、最終的には燃焼試験により安全性を確認してまいりたいと考えている。

新本庁舎に関連した

問題について

〈問〉 早い時期に新本庁舎建設検討委員会(仮称)などを設置し議論を重ねるべきと考えますが、市長の考えは。

〔市長〕 本庁舎に防災拠点としての機能を持たせるには、I s値0.75以上の高い強度を持つ施設として整備を図ることが必要と考えている。今後、さらに多くの皆様に関心を持っていただくため、再度意見の募集を行い、その内容を精査し、議会と連携して議論を重ねながら、災害に強く誰もが利用しやすい本庁舎として、整備を進めたいと考えている。

市内野球場のバックスクリーン等に設置されている電光式カウント表示板について

〈問〉 早期に改修すべきと考えますが、市長の考えは。

〔市長〕 現在、市で管理している野球場6カ所のうち、5カ所に旧方式のカウント表示板が設置されているが、24年度中にすべて「BSO方式」へ改修したいと考えている。



〈現在のカウント表示板〉

11月の除雪体制と 反省について

〈問〉 ことしはどのような苦情が多かったのか、反省すべき点は何かあったか。

〔市長〕 「除雪車がこない」「表面の新雪しか除雪していない」「マンホールの段差がひどい」などの声が多く寄せられた。この冬の反省を踏まえ、こまめな除雪など効果的な対策を検討し、道路交通の安全確保に努めてまいりたい。

※DC～DESTINATIONキャンペーンの略。JRグループと指定された自治体、その地域の観光事業者等が協働で実施する大型観光キャンペーン。秋田DCは平成25年秋に実施される。

一般質問

佐々木 康子 議員 (いぶき)

第13回大館市世論調査の結果について

〈問〉 今後の施策にどのように反映させるのか。

〈市長〉 全53施策中、前回より満足度が高くなったのが19項目、低くなったのは34項目。今後、各項目について課題等を詳細に分析し、24年度以降の事業選定や予算の適正配分、市民生活サービス向上の指標として反映させていく。

秋田DCCに向けた観光振興策について

〈問〉 あきたびじよんの取り組みは。

〈市長〉 このPR戦略は、秋田DCCに向けた良い動きである。大館版のあきたびじよんを考え、魅力をアピールしたい。

〈問〉 来秋の秋田DCCに向けた戦略的取り組みは。

〈市長〉 地域が一体となって、受け入れ体制の整備をする予定



である。今秋の「大館きりたんぼまつり in 樹海ドーム」が観光の核となり、市全体の観光振興につながるかと考える。

〈問〉 観光振興の推進計画の具体化は。

〈市長〉 22年度に策定した大館市観光基本計画に基づき、観光の磨き上げ・観光コースの整備・滞在型観光・広域観光ルート・市民参画型観光・情報発信の6項目を柱に、おのおの具体的な取り組みをしている。

〈問〉 まち全体を活用して郷土の先人顕彰に取り組みることにより、新たな観光の目玉にしてはどうか。

〈市長〉 多くの人が大館の先人をして市を訪れており、大きな観光資源と言える。「まちなか博物館」については、可能性を検討したい。

国民文化祭について

〈問〉 26年開催の国民文化祭の対応は。

〈市長〉 美術部門では、ゼロデータ展。音楽部門では、ゴスペル音楽祭・吹奏楽の祭典など、地元開催を要望している。

事業に伴う古代遺跡の取り扱いについて

〈問〉 事業予定地から古代遺跡が発見されているが、その歴史的判断と取り扱いについて。

〈教育長〉 評価については文化庁などの助言を得ながら担当専門職員が判断する。貴重な遺跡と判断した場合は保存するが、それ以外は報告書を作成の上、開発が行われることになる。

武道の必修化について

〈問〉 中学1・2年生の武道の必修化への対応は。

〈教育長〉 既に10年以上前から柔道に取り組んでおり、担当教員は研修済みである。事故防止にも万全を期する。

相馬エミ子 議員 (社会党)



本庁舎のあり方について

〈問〉 旧正札竹村ビルへの移転か建て替えかの二者択一ではなく、百年の大計に立って、もっと慎重に将来を展望して進めべき。防災拠点として、また大館市のシンボルとなり得る本庁舎の問題を、このような進め方でよいか。

〈市長〉 旧正札竹村本館と新

館を改修し移転する案と、現庁舎改築案の2案を議論のたたき台として、市民に意見を募った。もちろん将来を展望して慎重に進めなければならぬ。利便性の高いコンパクトシティを目指すシンボルとしての庁舎のあり方について議会と議論していきたい。

寝台特急日本海の存続について

〈問〉 特急日本海が3月17日で廃止される。大阪便の飛行機も休止となっており、関西と大館を直結する交通機関がなくなれば、地元の経済はもろくな

ら、関西等の企業誘致にも影響するほか、修学旅行や観光、進学等の移動手段がなくなる。積極的に存続または復活を求めるべきではないか。

〈市長〉

JR東日本に対し、県が本市を含む沿線自治体の存続要望を取りまとめ提出しているが、今後も広域的に組織をつくり積極的に要望活動をし、関西ルートは今後どのように確保するか対応策を検討したい。

豪雪対策について

〈問〉 今冬は家屋の倒壊や屋根の雪下ろし中の転落事故などが目立ったが、ひとり暮らしや高齢者世帯に対し、例えば非課税世帯を対象に半額助成できな

いか。

〈市長〉 市では、本年度3事業による除雪支援を行っている。他市では1世帯当たり4万円を助成しているところもある。屋根の雪を滑り落ちやすくする塗装や無落雪化などの解決方法がある。助成に関しては、財政面の課題等について検討していきたい。

下川沿公民館の増改築について

〈問〉 公民館の増改築は、地元住民の長年の悲願であり、更

新計画では十二所の次が矢立、下川沿となっているが、矢立が学校統合問題を視野に進めていることから、下川沿公民館を早めるべきであり、早期改築を望むものである。

〈市長〉 下川沿公民館の増改築については、更新計画に基づき早期改築を目指しており、文教地区の現在地での改築をベースとして、地元と協議を重ねながら、条件が整った次第改築に着手したいと考えている。

ささしま
あいこ
笹島 愛子 議員 (日本共産党)



武道等が必修科目 その問題点や課題について

〔問〕 新年度から中学校で武道等が必修科目になるが、教育的指導や体力向上等の指導ができる教師が各校にいるのか。また、男女別に指導するのか。さらに、相次いでいる柔道事故への安全対策はどのようなものか。

〔教育長〕 県教育委員会主催で研修を積んだ教員が指導することになる。男女別については、ペアで練習する場合は同性で行うなどの配慮をする。また、柔道による重大事故発生率の高さは認識している。文部科学省の「柔道指導の手引」を活用し、事故防止を徹底させる。

子どもの医療費無料化 拡大について

〔問〕 県が子どもの医療費無料化の年齢を小学校卒業まで拡大させたことは、長年要望してきた私としては評価するもの。

本市としては、県の事業にプラスして中学校まで拡大することを求めている。県内では既に拡大している市町村や新年度から拡大を決定した市もある。本市でも検討すべきである。

〔教育長〕 市では、子どもへの医療費助成は少子化対策の一環として重要な施策と考えている。市の単独事業として、所得制度を超えた未就学児やひとり親世帯の18歳までの子どもについて助成を行っており、中学校卒業までの拡大についても検討していきたい。

介護保険料・後期高齢者 医療保険料の値上げについて

〔問〕 新年度から介護保険料が約2割も引き上げられることになる。引き上げ幅を極力抑えたということだが、75歳以上の方は後期高齢者医療保険料の引き上げとダブルパンチに。そのうえ年金額は引き下げられトリプルパンチに。介護保険の基金等をもっと活用して引き上げをストップすべきである。

〔市長〕 県の財政安定化基金交付金の充当や介護保険事業基金の取り崩しにより、保険料の伸びを可能な限り抑えたもの。今後も市長会等を通じ、国・県に対し、高齢者の負担軽減のための財政支援を要望していく。

がれき処理問題について

〔問〕 がれき処理の問題については、まず放射性物質を拡散させないことと、市民の不安を払拭するためにも慎重に対応すべきである。市民の間でもがれき受け入れについて温度差がある。住民間のあつれきを引き起こさないためにも慎重に。

〔市長〕 がれきについては、放射能による汚染の有無や形状などの情報を収集・整理した上で検討する。最終的には燃焼試験により安全性を確認したうえで、議会と市民へ相談し十分検討する。

さいとう
のりゆき
斉藤 則幸 議員 (公明党)



防災会議に女性を 登用すべき

〔問〕 東日本大震災から1年がたつが、地域防災計画に女性の意見は反映されているのか。

〔市長〕 本市の防災会議における女性の登用状況は、委員35

名中、女性は1名である。今後は、女性の意見を原案の段階から計画に反映させたい。

自転車事故対策について

〔問〕 小・中学生の自転車利用の実態について。

〔教育長〕 小学校においては、一部を除いて通学の手段としては認めていない。中学校においては、登下校や部活動の移動手段として認めている。

〔問〕 自転車事故対策は。

〔教育長〕 各校で実施される交通安全教育等において、飛び出しの絶無を期して具体的指導の徹底を図るよう指導している。

〔問〕 自転車専用レーンの設置について。

〔教育長〕 関係機関に働きかけたい。

屋根の雪下ろしに 助成できないか

〔問〕 高齢者の屋根からの転落事故が多い。支援できないか。

〔市長〕 屋根の雪下ろしの根本的解決策としては、無落雪化などの方法がある。緊急時の相談体制は継続しながら、助成に関しては財政面等の課題について検討したい。

空き家対策について

〔問〕 空き家の積雪が引き起こす事故への対応は。

〔市長〕 市全域で、放置家屋等は540件ある。屋根の雪の問題を初めとする建物の管理は本来所有者が行うものであるが、所有者が拒否したり不明な場合には取り壊し費用や所有権等の問題がある。

〔問〕 今後の取り組みは。

〔市長〕 一自治体では解決できないことから、国に対し、市長会を通じて費用の助成措置を含めた制度の確立を要望している。

教科書のバリアフリー化は

〔問〕 ※デージー教科書の導入は。

〔教育長〕 学習効果が立証されたならば、大館市でも積極的に働きかけたい。

不育症治療について

〔問〕 公費助成できないか。

〔市長〕 不妊治療と同様の助成が受けられるよう取り組みたい。

避難所運営ゲーム (※HUG) UUGU

〔問〕 導入すべきではないか。

〔市長〕 職員訓練での活用方法などについて検討したい。

※デージー教科書～発達障害などで「読むこと」が困難な児童・生徒向けにデジタル化された教科書
※HUG～避難所(H)運営(U)ゲーム(G)。避難所運営訓練のひとつの手法として、静岡県が開発した模擬体験ゲーム。

一般質問

おだなきまさゆき
小棚木政之 議員 (平成会)

市役所本庁舎の 建て直しについて

〔問〕 耐震補強前提の取り組みは何だったのか。今回のプロセスは情報が限定的で混乱を招いている。最初からやり直すべき。財政が厳しい上、防災拠点であれば本庁舎である必要はない金額と場所だけ先行した感がある。分庁舎問題やまちづくりも同時進行で検討すべき。市役所より学校などの補強が先では。

〔市長〕 震災前は阪神淡路大震災でのマグニチュード7・3、震度6強を想定していたが、東日本大震災でそれを上回ったため、避難場所としても考え、これまでの計画を見直すことにし、前提を設けず市民から意見を聞いた。これからのまちのあり方を惹起するのにも必要と思う。



市観光基本計画の進捗と 大型観光キャンペーンへの対応

〔問〕 10年計画の2年が過ぎ

たが進捗は。大型キャンペーンが目白押しだがあまり進んでいないのではないかと。現場の取り組みが効果的になるよう今こそ資源を最大限投入すべき。市長が先頭に立たないと堂々巡りだ。

〔市長〕 プランの6つの項目は小さいながら着実に進んでいる。入り込み客数は減少傾向。これからの3年間で正念場。大館地域観光振興協議会を中心に全庁体制で臨む。

県市町村未来づくり 協働プログラムについて

〔問〕 このプログラムは観光に最適と思うが、検討している事業はあるか。旧小坂鉄道でのレールバイク事業を提案したい。唯一無二の観光資源であり、小坂町の資源と鉾山町としての大館の歴史を見える形でつなげることができると。

〔市長〕 プログラムには3つの要件があるが、旧小坂鉄道を使ったレールバイクは合致する。小坂鉄道を残したい気持ちは同じ。雇用の拡大にもつながるし、貴重な産業遺産だ。路線敷の管理には財政負担が伴うため県と協議したい。

土地改良区の水路への 生活排水等の放流

〔問〕 土地改良区の水路へ放流する者は有料で使用している。

本来は下水道が側溝を整備すべきではないか。公平性の観点から当該地域での下水道、側溝を優先整備すべき。

〔市長〕 市道側溝未整備区間の解消や下水道整備区域拡大が必要。計画的に整備を進めたい。

臨時職員の方について

〔問〕 1年以上の臨時職員は何人か。雇用期間が長いと正職員との待遇格差が生じる。雇員体系の整備をせず、臨時職員に甘えているのではないかと。

〔市長〕 328名。専門性から長期化しているケースもある。解消のため業務見直しをする。



さとう よしたか
佐藤 芳忠 議員 (無所属)

可燃性のがれきを受け入れることは「高濃度の焼却灰」を受け入れることとあり放射性廃棄物の処分地にならなければならない。がれきも焼却灰と同じく市民の声を尊重した対応をすべき。

〔問〕 岩手県の4市町村の36、75ベクレルのがれきを焼却すれば、1944〜5250ベクレル以下のセシウムを含む焼却灰になる可能性があります。関東に送り返した焼却灰が1850〜5580ベクレルでしたので、岩手のがれきの焼却灰の濃度がいかに高いかわかると思います。佐竹知事も9月は、焼却灰の蓄積には慎重な対応が必要としていました。また秋田市長は「がれきは焼却すると放射性物質の濃度が10倍、100倍になるとも言われており、放射性物質が国の規制値を超え、高濃度になる危険が払拭できない」と述べています。秋田市は今回、濃縮率を54倍と仮定し試算しています。本市は「1kg当たり100ベクレル以下だとしても、焼却することで30〜50倍、物によっては70倍になる」と述べています。知事が言うように一般ごみに2割混ぜて焼却し600ベクレルだったとしても5回では3000ベクレルになります。放射性物質は分けて埋めても消えはしないのです。たった1年前まで100ベクレル以上のセシウム137は放射性廃棄物として処理施設で長期保存されていたのです。セシウムを含むがれきを受け入れるということは、セシウムの飛散が無に等しかった本県がこれから延々と放射能を持つ物質を受け入れ蓄積していくという重大な問題です。健康や

水や農業などへの影響について正確な情報を市民に説明し、受け入れの是非を問うべきです。岩手県の復興を支援するということは、重大なリスクを負うということだからです。何百年にもわたる負の遺産を子孫に残してはいけません。

〔市長〕 がれきの放射能汚染の有無は、非常に重要な判断基準になるものです。

〔問〕 焼却灰に違いがないのなら、関東の焼却灰と同じく受け入れられないということになるのでは。

〔市長〕 岩手と関東で焼却灰に変わりはない。その通りです。ポイントは放射性濃度のレベルです。岩手から持ち込まれるものがどのくらいレベルかということと判断すべきだと思います。それが本県と差がないものなら、一般ごみの処理を委託されたのと同じ判断ができると思います。

障害支援センターの設置について

〔市長〕 今後、施設のあり方などについて関係団体と協議しながら、検討してまいりたいと考えています。

24時間定期巡回・随時対応型 サービスの実施について

〔市長〕 第5期介護保険計画の中で、このサービスが御利用いただけるよう、取り組んでまいりたいと考えています。

田村 齊議員(新生クラブ)



今冬の除雪対策について

〔問〕 今冬の降雪量は、地域によっては平成18年豪雪をしたのぐとも言われているが、反省と今後の課題は何か。

〔市長〕 12月中旬から降雪が続き、平成18年豪雪に次ぐ199センチメートルとなるなど昨年同様の大雪となった。市民の皆様の要望や意見を受けとめて、今後もこの冬の反省を踏まえ、こまめな除雪など効果的な対策を検討し、除雪車両等の更新も図りながら、道路交通の安全確保に努める。

介護保険の見直しについて

〔問〕 医療と介護が連携した中で、在宅介護を支援していくことが地域で安心して暮らせるまちづくりだと思ふが。

〔市長〕 第5期介護保険事業計画における保険料については、基準月額をこれまでより19・8%増の月額5,239円とす

る条例改正案を本定例会に提案している。昨年10月現在の在宅待機者は453人でその解消を図り、また特別養護老人ホームなどの施設の整備を推進し、244床の増床を目指すこととしている。

自殺予防対策について

〔問〕 秋田県の自殺率がワーストワンだと言われているが、本市での対策はどうか。

〔市長〕 御指摘のとおり、秋田県は自殺率が平成7年から16年連続ワーストワンとなっており、県を初め各市町村がさまざまな対策を講じてきたところである。具体的には本市として市民を対象とした講演会の開催や広報等による啓発活動を幅広く実施している。

観光物産プラザについて

〔問〕 新年度から大館駅といつくショッピングセンターに拠点を開設することになっているが、大館駅の駐車場対策は万全か。

〔市長〕 大館駅の駐車場については、引き続きJRと協議を進めてまいりたい。

岩手県のがれき受け入れについて

〔問〕 東北の一員として、また隣県として復興支援に協力するため受け入れを決断すべきと考

えるが。

〔市長〕 今後も議会と市民の皆様と御相談申し上げながら被災地の復興支援のために検討を進めたいと考えている。

ジェネリック医薬品について

〔問〕 ジェネリック医薬品の利用が秋田県では低調だと報道されているが、大館市立総合病院での割合はどうか。

〔管理者〕 当院でのジェネリック医薬品の使用状況は、平成22年度は10・1%で23年度は11%となっている。

あかし ひろやす 明石 宏康 議員(いびぎ)



がれきの広域処理を速やかに推進するについて

〔問〕 焼却灰でもがれきでも、その是非を問う議論の論点は他の支援内容や雇用や金ではなく、安全性と一刻を争う事業の時間が遅延されるべきだ。広域処理が遅々として進まないのは各地

の処理能力ではなく、ひとえに目に見えない放射能への住民の拒絶反応にほかならない。早期の現地処理案など机上の空論に過ぎず、がれきが整然と片付いているという一部の人の話も全くの誤りである。新たに各地に処理施設をつくっている時間などない。

〔市長〕 がれきの受け入れについては早期に検討を進めなければならぬ。現地処理ができないから広域処理案が議論されていると認識している。

〔問〕 被災地沿岸の町のあちこちががれきが野ざらしになり1年が過ぎた。微量の被曝リスクに固執する方には対案で問いたい。風雨の中ののがれきは大丈夫なのか。我々が迅速に行うべきことは科学的根拠に乏しい基準値以下の放射能汚染に恐怖することではない。人類の英知を集結させて被災地の汚染物質を整備の整った施設で完全に閉じ込める努力を国家戦略として強く推進することだ。

〔市長〕 放射性物質が1ベクレルたりともあれば反対だと主張される方がおられたら、安全基準などについてさらに丁寧にお伝えすることも私どもの責務である。

〔問〕 広域処理について、多くの市民は不安はあれ賛成だから説明会にも来ないし抗議活動も

行わない。全く目立たない静かな彼らはサイレント・マジョリティー(物言わぬ多数派)だ。彼らの不安を取り除くのが我々の責務であり、国や市民の動向を見守ることではない。試験燃焼にすら全く言及してこなかった市長の今回のスピード感の欠如とも言える後手の対応には猛省を促したい。この事業には前例などない。加えて絶対失敗など許されない。こうした難局に真正面から挑んで被災地救済の一翼を担ってほしいから申し上げたい。反対の人たちも真剣にふるさとの未来を考えている。彼らを無視したり強引に論破しようとしてもだめだ。こちらが謙虚な姿勢で第三者監視人として事業参画を呼びかけたらどうか。また、より多くの市民に説明会に来ていただくため市内の各団体に案内したらどうか。恣意的な動員だと言われぬように情報公開の徹底に努めればよい。

〔市長〕 これまで以上に市民の声を伺っていく。試験燃焼により安全性を確認することとし、その結果を公表し、早い時期に一定の方向を示したい。

一般質問

富樫 孝 議員 (新生クラブ)



在宅介護と高齢者の支援について

〔問〕 他市の情報を取り入れたら高齢者の介護が必要となっても安心して暮らせるように支援事業の充実をさらに図るべきである。

〔市長〕 施設入所待機者の解消を図るため特別養護老人ホームの施設整備を推進したい。在宅介護サービスを充実させ、介護が必要な状態になっても地域や家庭で安心して生活できるように取り組んでいきたい。さらに緊急通報装置の設置やふれあい安心電話事業の実施など各種支援事業を組み合わせながら高齢者やその家族の支援に努める。

除雪と大雪対策について

〔問〕 今年は特に雪が多いためか除雪に対する苦情が多かった。大雪や利雪に対してもっと取り組むべきである。

〔市長〕 こまめな除雪に努め

たい。積雪時に生じるマンホールの段差の解消には融雪防止用中蓋の設置が有効である。水道メーターを地上に設置する遠隔式水道メーターについては漏水の発見に一定の効果があると認識しているが、財政面での検討が必要である。雪を資源と捉え、秋田県資源エネルギー課は観光施設・福祉施設・農業倉庫などへの導入を検討している。先進事例の情報収集に努めて十分に検討したい。

公民館の事業費について

〔問〕 事業費が毎年のように減額されているが、各講座を行うのに影響があるのではないのか。貸し館だけの公民館にならないか懸念している。

〔教育長〕 事業費が毎年のように減額となっているが、各種団体と連携した事業を積極的に実施している。事業費の減少にもかかわらず利用者数はほぼ横ばいを維持している。今後も与えられた財源の中で生涯学習のレベル向上に努めたい。

議会用語のミニ知識

○定例会・臨時会 (ていれいかい・りんじかい)

「定例会」は定期的に招集される議会のことです。大館市では、3月・6月・9月・12月の年4回開きます。

また、必要がある場合に随時招集される議会を「臨時会」といいます。

○本会議・委員会 (ほんかいぎ・いんかい)

定例会や臨時会において議員全員で行う会議を本会議といいます。議案などの審査のほか、市議会としての最終意思決定（議決）を行う場でもあります。

議決は本会議で行われますが、本会議での審議を効率的に行うため、少数数の議員で構成する委員会を設置し、議案などを能率よく、専門的に審査します。

大館市では、総務財政・厚生・教育産業・建設水道の4つの常任委員会が設置され、本会議で付託された議案などを審査しています。

また、議会の円滑な運営を図るために議会運営委員会も設置されています。さらに、特別委員会という委員会が必要に応じて設置されます。

○招集 (しょうしゅう)

議会が始まる前に、議員に対し、期日・場所を指定して集合することを求めることです。

○付託 (ふたく)

議会の議決に先立って詳しい検討を加えるために所管の委員会に審査を委ねることです。

○会期 (かいき)

議会が会議を行う期間のことで、開会日の本会議で議決により決定します。大館市議会の定例会の会期は、土・日・祝日を含めておよそ20日間です。

○一般質問 (いっばんしつもん)

議員が本会議で議長の許可を得て、市政全般について市長の考え方などを質問することです。

○答弁 (とうべん)

本会議での一般質問や委員会などでの議員の質問や疑問に対し、市長や教育長、関係部・課長などが説明や回答などを行うことです。

○議案 (ぎあん)

議会の議決を得るために、市長や議員、委員会が提出する案件を議案といいます。

○議決 (ぎけつ)

議会で、議案などに対する可否（賛否）を決定することです。意思決定の内容により、結果の表現のしかたが異なります。主な種類は次のとおりです。

- ・可 決 (か けつ) 予算・条例・契約・意見書等の議案
- ・認定 (にんてい) 決算に関する議案
- ・承認 (しんにん) 専決処分に関する議案
- ・同意 (どうい) 人事案件に関する議案
- ・採 択 (さいたく) 請願・陳情に関する議案

○議事 (ぎじ)

議決とそれまでに至る審議の過程等すべてのことです。



私もひびく・ひびく

⑭

この「コーナー」ではみなさんからの「なまの声」を募集しています。お気軽にご投稿下さい。

みのり台町内会長(田代地域)

近藤 藤

巧さん (みのり台)



ソフトとハードの施策

1月30日に人口問題研究所が公表した推計によれば、2060年には日本の人口は3分の2まで減り、全体の4割が高齢者になるそうである。全国紙でこの記事を読んだ後、広報おだての人の動きの欄を見た。昨年2月1日で市の人口は8万154人、今年の同時期には7万9,415人であるから、1年で703人減ったことになる。この人口減少を食い止める手だてを国も地方も躍起となって

考えているようだが、出生率の落ち込みを防ぐことができないでいる。人口の自然減を防ぐことはできないにしても、この減少傾向にさらに拍車をかける社会減を止めるにはどうしたらいいのか。企業誘致・産業振興・起業家支援などが対策として考えられる。事実、市の最近の世論調査結果でも推進施策の重要度第1位はリサイクル産業の振興となっている。これらを人口流出対策や市の活性化推進のハード面の施策と私は呼ぶことにする。期待大である。

先日、市議会を傍聴した。「がれき処理」「豪雪対策」の質問が多いのは想定内であったが、「観光」についての質問が多いのは驚いた。そこで、一市民として観光についての思いを述べたい。観光の隆昌は町の往来が盛んになるので、市の活性化につながり、移動人口・交流人口の増加となる。また、お金が巡回して経済に活力を与える。観光は領域が広いので、各分野との連携が大切である。官と民との連携も欠かせない。ウエルカム大館プランの体系図に工夫の跡がうかがえる。留意すべきは連携も協調も推進のためであって、単なる連絡・調整で終わってはいけない。体系図が有機的に機能することを切に望む。

次に、テーマ別の観光案内の充実である。各地域に拡散している観光資源をある視点で整理して、体験型・先人史跡探訪型という類型化したパンフレットがあればいいと思う。さらに、通年観光を目指すとするば、云々と夢は尽きない。市活性化のソフト面での施策として観光に期待する。

市議会を傍聴してみませんか

定例会と臨時会の本会議はどなたでも傍聴できます。

傍聴される方は、市役所東側(裁判所側)3階の議場入口で受付簿に住所・氏名等をご記入のうえ、係員の指示に従って議場へお入りください。

なお、団体での傍聴をご希望の場合は、傍聴席の数に限りがありますので、あらかじめ議会事務局にご連絡ください。

☎ 4317108 (直通)

編集後記

東日本大震災から1年が経過し、一日も早い被災地の復旧、復興を願うばかりである。本市にも焼却灰がれき処理という形で放射性物質問題が浮上してきた。この問題を審議し『基準値』とは何か!改めて考えてしまう。焼却灰に含有される放射能はゼロに近いに越したことはないが『基準値』以下ならその数値を信頼しスタートしないと問題解決の糸口さえ掴めない気がする。

議会報の編集にあたり、より掘り下げた特集記事掲載の必要性を感じつつ、魅力ある議会報づくりを模索している。

(武田 晋 記)